



マーク・ダニエル・マローニー R1 会長

郡上長良川ロータリークラブ

会長テーマ ひだまりロータリー

会長：和田良一 副会長：三島 昭 幹事：島崎秀樹

第1986回 令和2年2月12日(水)

本日の行事 スポーツ例会（ヨガ教室）

2019-20年度	和田良一会長	※ ガバナー事務所より
本日のお客様	ヨガ講師 西川朋子様	2022 - 23 年度ガバナーノミニー決定宣言
幹事報告	島崎秀樹幹事	※ 地区事務所よりインターアクト韓国派遣報告書

第1985回例会

会長挨拶

2019-20年度 和田良一会長

今晚は。今日は外来卓話で平野さんの話をたっぷりお聞きしたいので短めにお話します。
 本日、志摩ロータリークラブの田辺会長と、30周年実行委員長の竹内さん、と小林さんと運転手で若い会員さんの4人で見えました。4月4日の土曜日に福寿荘で、志摩RC、小倉中央RC、郡上長良川RCの3つの合同前夜祭を行い、5日に宝生苑にて志摩ロータリークラブ30周年記念式典を行うとのことで、大勢の方にお越しいただきたいとの事で見えたそうです。僕としては5、6人行けばいいかという気持ちでいたのですが、向こうとしては大勢来てほしいとの事でしたので、会員の皆さんには4月4、5日を空けておいてください。

又お知らせですが、堀江直史君より退会届が参りました。寂しいですが、どうもできませんので、皆さんも招致をしておいて頂きたいと思えます。

平野さんがなぜ石徹白に移住したのか、高学歴で都会に人脈もある方が、過疎の部落へどうして来てくれたのか、お聞きしたいです。夏なら僕も住みたいと思えますが、冬は厳しく、雪が沢山降った時には生活するには大変です。そんなところで仲間もどんどん増えてきていると聞いております。1月の岐阜新聞に石徹白地区の事が連載されておりました。今日は楽しみにお聞きしたいと思えます。

外来卓話—現在・過去・未来—

平野彰秀様

なぜ石徹白に住むようになったのか、9年住んでどんなことをやってきたか、最近どういう事を考えているかを話したいと思います。

生まれたところは岐阜市の上土という所で、周りは田んぼばかりでしたが、中学の頃に環状線が開通したら、家の隣に大きな店が出来、今は治安が悪くなり、実家は強盗が入ったりしました。

大学の時に街づくりなど勉強していたので、自分が関わることで、その町が変われば良いなと云う事と、東京にいて色々な街を知るのではなく、一つの場所を決めて、その町の事をやりたいと思ったのが20歳の頃でした。岐阜市にはそれほど思い入れがなく、いづれどこかの場所へ行こうと思い、一旦社会人になり、東京で会社勤めをしていました。たまたま大学院の時に会った学生が岐阜市の柳ヶ瀬出身で、岐阜の町が寂しくなっていくので、そこを何とかしたいという事で、G-net という団体を作り、イベントやフリーペーパーを作ったりしていました。東京から岐阜に長期の休みを取ってイベントをしていました。このメンバーの一人に郡上出身の人がおり、その子の実家に通うようになり、とても良い所だと思えるようになり、人が減っているという話を聞き、思いついたのが水力発電でした。2007年頃から石徹白に通うようになり、その夏に石徹白の人に水力発電をやりませんかを持ちかけたところ、一緒にやりましょうと言っていただいて、2008年の春に東京の仕事を辞め、岐阜に住みながら石徹白に3年通い、水力発電の推進を始めました。水力発電と言っても農業用水を使って発電が出来ると聞いたので、最初に付けたのはカナダの会社がベトナムで作っている水車で、地元の方が設置しました。これがうまく動かなく、すぐゴミが溜まったりしました。他所から来た者が、地域の用水に水車を地元の一部の方と設置していると良く思われなくて、よくわからない事をしていると思われることが多く、その当時、聞こえてきた声としては、水力発電は自分とは関係ないとか、一部の人が勝手にやっているだけと、ちらほら聞こえてきて、自分としては水力発電をする事によって石徹白地区にとって良いことだと思っていたのが上手くいかなくて、一部の人が一生懸命で多くの方が良く思われていませんでした。設置をしたが小さくて意味があるかなと思いながら設置していました。通い始め

て、都会側としては水力発電を設置すれば地元の為になると思っていてもしょうがないと思われていました。地元の人たちに色々話を聞いて、水力発電だけでなく、地域の活動にも参加させて頂くようになりました。最初は石徹白のホームページを作ったり、今はやっていませんが地元の女性有志で立ち上げたカフェや、特産品販売などをやってきました。石徹白さんとは2007年からの付き合いで、水力発電を行う頃と同じ頃に石徹白地域作り協議会という団体が出来、2009年に石徹白ビジョン策定され、市役所が事務をしていたのですが、石徹白さんが事務局をされたときに声を掛けられ、事務局をすることになりました。その当時はまだ岐阜から通っていて、毎月第2、4火曜日に集まっていました。

毎年、テーマを決めて、それについて取り組んでいき、地域おこし協力隊の方に来てもらい、特産品を作ったりしました。2012年路に石徹白小学校の全生徒が12人で、数えていくと何年か後に4人になると言う事で、最初は小学校の間だけ山村留学の制度を受け入れようと検討して、いくつかの地域に実際に見に行ったりしましたが、PTAの中には小学校を残す人と残さない人とがいて、地域作りの題材に使うのはどうかという話もあって、子育て世代が移住してくることを推進しました。HPを作ったり、住む所を探したり、運動会や行事などに移住に関心のある人に来てもらうツアーをしたりしました。結果として昔は10~15人ずつ減っていたのが2011年から毎年移住してきて、現在14世帯増えています。小学校が一番少ない時は4人で、今は9人在学しています。小学校以下は18人おり、今年生まれる子が3人おり、将来は17人まで小学生がいます。全国どこでも人口が減っているのでやむを得ないとは思いますが、何とかここで暮らしていけないかと考えております。今はたまたま子供が増えています、5年度10年後は減っているかもしれません。常に何かやり続けないとどんどん減っていってしまいます。

水力発電ですが、小さいと家1軒1万円分ほどで採算が取れず、何百万もかけて作っても意味がなく、稼げるエネルギーを作らないといけないと始めた当初から思っていました。明治時代の人々が3キロ上流から作った水路があり、石徹白側の支流で、元々石徹白地区は焼畑の集落で中々コメが出来なかった。そこで水を引いてきたおかげでコメが出来るようになった水路があり、その水路を使って発電所を作ろうという話が地元からと、我々も調査で分かっている、県もその水路からという話がありました。結果的には国と県と市がお金を出して発電所を作り、もう一つは地元の人が発電所を作りました。2014年に100世帯の人たちが出資をして、農協協同組合を作りました。JAとは関係はなく地域の組合です。発電所を作るには2億4千万円くらい掛かり、県と市から補助はいただきました。地元の皆さんには借金をしてもらわなくてはいけなくなるので、色々話し合いをしました。石徹白は縄文時代から続く地域ですが、住むのはたいへんな所です。山深い所で住むには並大抵の事ではありません。先人の人達は様々な工夫をして暮らしてきました。白山信仰で御祈祷して稼いだり、畑や用水を管理したりなど、昔の人たちが脈々とやってきたのでこの集落があると思います。高度成長期以降この場所では稼げないと云う事で、人がどんどん出ていってしまいました。水力発電を導入することをきっかけに、もう一度一つになって取り組んでいこうと云う事で、発電所が出来ました。

石徹白は大正13年に発電所を作っていて、当時は石徹白電気利用組合で組合員が175名いました。これは美谷添生さんから教えて頂き、昔の資料にも書いてありました。昭和30年まで他の電力に頼らずこの発電所を使っていました。今回 発電所を建設して完成したのは2016年になります。郡上では上映はしていませんが、「穏やかな革命」という映画があり、全国で自然エネルギーに取り組んでいる5地域くらいを取り上げられている映画です。2015~16年に発電所を作る時に映画監督が来て取材があり、一つの映画になって全国に上映されていました。郡上の人達にも見ていただきたいですが、中々その機会がありません。

発電所を作ったのは2016年ですが、お陰様で発電所を作った事で全国から注目をいただいています。この10年、石徹白で地域作りの取り組みをして、うまく言っている事と上手くいっていないこともあります。僕自身は 水力発電の調査を行ったり、発電所を作ることもしています。今は高山の奥飛騨温泉郷で地元の人たちが出資して発電所を作っています。その調査から設計までやっています。郡上市内でも水力発電を2ヶ所ほど新しく作ると云う事で、市の調査の仕事をさせていただいています。

最近やっていることですが、昔東京で会社勤めをしていた時の先輩が「世界で最もイノベーティブな組織の作り方」という本を書いていて、新しいことを起こすのはどういう人か！という本で、6つの特徴があり、1. 明確な方向感と視座、2. 人材の多様性、3. 上下間の風通しの高さ、4. ネットワーク密度の高さ、5. 失敗に寛容な文化、失敗しても許される文化、6. 組織における「遊び」の存在、企業でいうと一つの事業だけでなく、関係ないこともやってみる、と云う事がリノベーティブな特徴だと書いてあります。これは企業だけでなく、地域にも当てはまるだと思います。石徹白に住んで10年で色々な事が出来たのは、小学校を残そうとか、地域を残そうという明確な方向があって、地元の人でも外から入ってくる人も色々な人材がいて、割と上の人たちが下の人たちが何かやる事に寛容な部分もあったり、風通しの良さがあったり、顔を合わせてコミュニケーションをとることもあり、みんな日々稼ぐことに一生懸命だけでなく、遊びがあるのも大事だろうと思います。本の中で、アメリカ科学史家のトーマス・クーンが「本質的な発見によって新しいパラダイムの転換を成し遂げる多くが、年齢が非常に若い、或いはその分野に入って日が浅いかのどちらかである」何か新しいことをやる人は若者か新参者であるかと書かれています。僕は水力発電に関しては素人で、水力発電は明治時代からある事ですので、地域の人たちがお金を出して発電所を作ることは全国的に珍しいこと

で、それを僕が出来たのは僕が若者で、新参者だったと云う事ですし、石徹白で出来たのも若者であり新参者だという気がします、石徹白に9年住んでいると若者でもなくなります。地域に熱心な60、70代の人がかんたん年老いて中々風通しが悪くなってきて、みんなで力を合わせて地域の事と云う事が、必ずしもうまくいっていないことも事実です。若造と新参者が引き起こす状態を何とか作る方法はないかと思ひ、この9年位やってきたことが2つあります。一つはHUB GUJOという八幡吉田川沿いに郡上紡績という工場があって昭和16年に建てられた建物がありますが、大和に住んでいる赤塚さんが徳島県の亀山町というIT企業が沢山集まっているという話を聞いて僕の所に相談に来られました。仲間を募って美並町でラフティングをされている清水さんともう一人の4人で、借りる場所を探してこの建物にあたり、改修をしてIT企業が入れる場所を立ち上げました。2017年にオープンして、今は24団体くらい入っています。この中でテレビ会議システムを提供している一部上場のV-CUBEという会社があります。最初にこの会社が入ってくれて、離れた場所をテレビ会議で結ぶとができるので、石徹白小学校は同級生がいないので、読書感想文を書いてみたり、道徳とかも出来なくて校長先生が何とかしたいということで、教育委員会と話して遠隔教育システムを導入しました。今は郡上市内小中学校に導入されています。石徹白小と小川小が毎週1回、朝のHRの時間につないだり、北濃小と石徹白小6年生と一緒に道徳をしたりしています。HUBGUJOに入ってきたメンバーの中に、NECを辞めてロボットプログラミング教室をしている宮崎さんという方がいて、その方がいるお蔭でいま郡上市内の小学校でプログラミング教育が必須になっていて、郡上でプログラミング教育が出来る人がいなかったのが、宮崎さんが来てくれたお蔭でプログラム講座出来つつあります。中々ITと郡上はかけ離れている所がありますが、ITがあるからどこでも働けるといふ所もあって、場所を選ばない働き方をする人が郡上にも住む事が出来たり、都会に出ていった若者が郡上でも仕事出来ることで、戻ってくるような仕組みが出来ないかと云う事をしてしています。市役所の事業で郡上カンパニーと云う事をしていて、地元の人達で事業のアイデアを出して、都会の人たちと一緒に移住して新規事業を作るという取り組みをしていて、今10人くらい移住してきた人が地元の人たちと一緒に事業を始めると云う事をしてしています。大和の母袋で民宿をやりながらどぶろくの財団という村を作ろうという人がいます。最初は自分自身が新参者としてやってきましたが、次に続く人を作れないかとやっています。

自分の人生が一番の財産であること云う事は皆さんもそうだと思いますが、19世紀のイギリスの社会学者でラスキンという人の言葉ですが、「人生に与えられた最大の財団は人生そのものである」と云う事を言っている方です。自分が生きている人生を、どういう風に最大限生きられるか、幸せな人は自分の人生を最大限に高め、周りにいい影響を与え続けた人が幸せな人で、そういう人が沢山いる国は豊かな国であること云う事を言われています。世間的な尺度で言うと、東京でいい仕事をしてお金を稼いでいる人ですが、何故か石徹白に移住して水力発電や郡上カンパニーなどをしていて、自分ができる最大限の事をして周りの人達がやり始めることができればと思っています。そういう場所が石徹白だったり白鳥だったりしえいけばいいと思っています。人生100年と言われていて今44歳ですが、うまくいかないことも沢山ありますが、やるだけやり続けていきたいと思っています。色んな方から学びながら出来る事を精一杯やっていこうと思います。

ニコBOX

ニコBOX委員会 旭 美香君

和田良一君 平野様、今夜はようこそお出で下さいました。卓話楽しみにしています。ようやく初雪が降って冬らしくなりました。沢山積もると良いですね。

美谷添生君 令和2年も早や2月、雪のない1月があったという間にすぎました。岐阜新聞1月1面の特集で石徹白を紹介していました。本日平野さんの卓話楽しみです。

山口君 呉君、新しい職場に行っても頑張ってください。平野さん、卓話よろしくお願ひします。

寺田澄男君 立春過ぎでの初雪には驚きですが、関係する人々には少しは潤ったのかな？平野さん、ご無沙汰です。今夜は卓話大変楽しみにしております。よろしくお願ひします。

畑中君 平野さん、今日はありがとう。

藤代君 平野様、本日はご苦勞様です。卓話楽しみに聞かせて頂きます。昭君、今日はありがとう。美味しくいただきます。畑中君、今日はお世話になりました。

三島勲君 新会員の川島様の歓迎会をさんたべーるで開催していただきありがとうございます。平野彰秀様、卓話楽しみにしております。

尾村君 平野さん、遠路ご苦勞様です。卓話楽しみです。よろしくお願ひします。

同文 大村君、三島昭君、羽土君、小島君、石徹白君、寺田正実君、原君、美谷添里恵子君、島崎君、佐藤君、清水君、宮川君、旭君

次回例会予定

2月19日 外来卓話(各務原中央RC 指宿様)

2月28日 IDM(ホスト 山下君)

出席報告

出席委員会 寺田正実君

	会員数	出席者数	欠席者数	補正者数
第1983回	35名	22名	11名	2名
第1984回	34名	22名	12名	

